

第3章 コロナ禍のロシア地域の最新情勢 —高まる地域への注目とその重要性—

中馬 瑞貴

はじめに

2020年のロシア地域¹はコロナ以外にも注目すべき話題が目白押しであった。2020年1月、任期満了前に「信用失墜」を理由に解任されたチュヴァシ共和国の首長が解任を命じる大統領令について最高裁判所に不服申し立てをするという異例の事態が起きた。2020年4月には北極圏に位置するネネツ自治管区で、隣接するアルハンゲリスク州との合併を進めようとした地元政府に対して住民が強く反発。住民の抗議を受けてすぐに合併の話は帳消しになったものの、住民の不満は収まらず、2020年7月1日に行われた憲法改正のための国民投票にまで影響を及ぼした。そして国民投票から約1週間後の7月9日には極東のハバロフスクで現職知事が殺人容疑で逮捕されるという前代未聞の事件が発生。これに対して地元市民は元知事を擁護する姿勢を明確にし、連邦政府に対する不満のデモが何カ月も継続した。

このように個別の地域情勢が揺らぐ一方で、2020年9月に行われた統一地方選挙では、各地域の首長²選挙で現職首長および首長代行が勝利し、地域議会選挙でも与党「統一ロシア」がほぼ全域で勝利を確実にした。今回の選挙は2021年に予定されている連邦下院選挙の前哨戦として注目されていたものの、大きな波乱が起きることはなく、無風の結果となった。ただし、今回当選した地域首長のうち過半数は与党「統一ロシア」ではなく、無所属の候補として当選を果たしている。首長選挙に無所属で出馬するには各地域の法律で規定する必要があるのだが、わざわざ今回の選挙のために法律を修正した地域が多数あった³。

2000年の大統領就任以来、プーチン大統領は中央と地方の関係を中央集権化するための制度改革を積極的にすすめてきた。特に地域の安定を保障すべき地域首長のポストについてはできる限り政権に従順かつ有能な人物を就任させようと、一時は地域住民による公選制ではなく、「大統領による任命制」⁴を導入していた。そして、再び導入された公選制も大統領や与党「統一ロシア」の影響力が候補者の擁立に大きく影響を与える制度設計がなされており、かつての公選制と比べると明らかに政権に従順な人物を地域首長に就任させやすくなっている⁵。しかし、そうしたプーチン政権の思惑とは裏腹に、未だに一部地域では情勢が不安定化している。一方で多くの地域首長は連邦政府に従順かつそれなりの能力を持った人々に代わりつつある。そして彼らは形式的にはあるものの地域住民の支持も獲得しているのである。ロシアで高まる地域への注目と重要性に注目しながら、ロシア地域の最新情勢について考察したい。

1. 揺れる地域情勢

(1) 共産党知事、自然災害に敗北

ロシアのシベリアに位置するイルクーツク州は頻繁に知事が交代してきた地域の1つで、特に2000年以降は交代が顕著であり、誰一人として5年の任期を全うできていない⁶。

政治的に不安定な地域の象徴とも言えるイルクーツクで、2015年9月には統一ロシア所属の現職知事が敗北し、共産党知事が勝利するという波乱が起きた。2012年に地域首長の公選制が復活して以来、現職ないしは大統領によって事前に任命された首長代行が着実に勝利を手にしてきたにもかかわらず、イルクーツク州では、1990年代から共産党を率いてきた州の有力政治家、セルゲイ・レフチェンコ（Sergey LEVCHENKO）が1回目の投票で37.22%を獲得し、現職のセルゲイ・エロシチェンコ（Sergey YEROSHCHENKO）の29.17%を超え、決選投票の末に、勝利を取めたのである。

野党知事ということでレフチェンコは就任直後から地元メディアの強い批判にさらされ、スキャンダルも頻発していた。しかし、その一方で積極的な投資誘致政策を行い、州の社会・経済発展に尽力した。2017年11月には日本を訪れ、投資プレゼンテーションを実施している⁷。そして2018年9月の統一地方選挙では2015年のイルクーツク州での波乱を再現するかのようになり、一部地域で野党候補が勝利するという結果になった⁸。プーチン政権や統一ロシアへの批判が強まっていることから、2020年に予定されている知事選挙および州議会選挙でレフチェンコおよび共産党が勝利する可能性は高く、レフチェンコ自身、2期目の出馬に意欲を示していた⁹。

しかし、2019年12月にレフチェンコは任期満了を待たずして辞任を表明した¹⁰。その背景には、同年夏に起きた自然災害が大きく影響していた。イルクーツク州では2019年6月末の大雨によって洪水が発生し、100以上の自治体が浸水被害に見舞われた。住民25人が死亡し、38,000人以上が被災するという大規模な被害は、プーチン大統領が3度も被災地を訪れるほど深刻であった。一方、史上稀に見る自然災害に対して州政府の対応が遅れ、レフチェンコ知事は連邦政府およびメディアの強い批判を受けたのである。大統領と知事との間でどのようなやり取りがなされたのか明らかではない。いずれにせよ、こうした状況を受けてレフチェンコ知事には、本人の希望により知事を辞任すると書かれた大統領令が署名された¹¹。

レフチェンコの後任には、イーゴリ・コブゼフ（Igor KOBZEV）元連邦非常事態省次官が任命された。ヴォロネジ市出身で同市およびモスクワでキャリアを積んだコブゼフはイルクーツクとは縁もゆかりもない。しかし、ここしばらく洪水や山火事といった自然災害に見舞われその対応が後手に回ってしまった同州の危機管理体制を見直すには適任と考えられたようである。

(2) 大統領への不服申し立て

2020年1月29日、「信用失墜」を理由にミハイル・イグナチエフ（Mikhail IGNATYEV）チュヴァシ共和国首長が解任された¹²。大統領が首長を解任する場合、必ずしも本人の意思ではない場合であっても、形式的・表向きには「本人の希望により」という理由を付けた大統領令に署名されることが一般的である。一方で「信用失墜」を理由に解任されるケースというのは稀であり、最近では2016年のニキータ・ベールィフ（Nikita BELYKH）キーロフ州知事や2017年のアレクサンドル・ソロヴィヨフ（Aleksandr SOLOVYOV）ウドムルト共和国首長が当該理由で解任された¹³。彼らはいずれも収賄容疑が解任の根本的理由にあった。イグナチエフが解任された根本的な理由は何か。2020年1月18日、「ロシアとチュヴァシの印刷の日」（День российской и чувашской печати）を祝う式典でイグナチエフは「当局

を批判するジャーナリストを『ぶちのめすべき (надо мочить)』と品のない言葉を使って発言した¹⁴ことが多くのメディアから批判的に報道された。またその数日後、1月23日には、イグナチエフが非常事態省の役人に対して、共和国に納入された新しい消防車の鍵を渡す際、ジャンプして取るように強要している動画がインターネット上に流出した。イグナチエフは当初、どちらのケースも反対勢力による陰謀だとして事実を否定したものの、非常事態省や自身が所属する統一ロシアの上層部から痛烈な批判を浴び、1月28日には統一ロシアを離党させられ、翌29日には首長辞任を言い渡された。

しばらくは沈黙していたイグナチエフだったが、5月20日に連邦最高裁判所に対して、1月29日付の大統領令に対する不服を申し立てた¹⁵。地域首長が大統領令を違法だと訴え、政権に反旗を翻すというのは昨今では異例の事態であった。これを受けて最高裁判所はイグナチエフの主張に対する検討会議を6月30日に行うことを決めた。しかし、イグナチエフは5月27日に両側性肺炎でサンクトペテルブルクの病院に入院した。イグナチエフは2019年夏に脳卒中で入院し、すでに2020年2月と5月上旬には同じ病院で治療を受けていたことも明らかになった。そして不運なことに、検討会議を1週間後に控えた6月23日に新型コロナで死亡した。イグナチエフの死亡に事件性などは疑われていない。

一方で、闘病生活を送っていたイグナチエフが大統領令に対する不服申し立てなどという大事を自ら思いつき、単独で行動することが可能であったのか。国内の専門家のあいだでは、イグナチエフの背景に前任のニコライ・フョードロフ (Nikolai FYODOROV) がいたのではないかとの憶測を呼んでいる。フョードロフ・チュヴァシ共和国大統領は1993年にエリツインの議会に対する攻撃を強く批判する形で連邦司法大臣を自ら辞任し、1994年に共和国大統領に就任した。連邦政府にとって厄介な地域ボスであったことは間違いないが、一方で、共和国大統領を2010年に辞任した後、2012年には連邦農業大臣に就任し、大臣辞任後は連邦上院で第一副議長を務めていた。厄介者ではありながら、政権ともうまく関係を築いていた。

フョードロフはイグナチエフの死について「未来に希望を持ち、大胆な計画を立て、自信をもって明日を見つめていた時にこの世を去ることは、大きな悲劇であり、損失である。その勇気、不屈の精神、忍耐を称える」と語った¹⁶。実はフョードロフは共和国大統領だった2000年にプーチン大統領主導で進めていた連邦制度改革に伴う法改正について、憲法裁判所に対して憲法違反であるという訴えを出したことがある。しかし、一部の専門家が述べている通り、1990年代や2000年代初期と現在では時代が違う。かつては大臣や地域首長が公然と大統領を批判し、それでも安定したポストが保障されていた¹⁷。

(3) マトリョーシカ型地域の合併

2020年4月2日、ロシア北極圏に位置するアルハンゲリスク州でイーゴリ・オルロフ (Igor ORLOV) 知事が辞任を表明し、隣接するネネツ自治管区のアレクサンドル・ツイブリスキー (Alexander TSYBULSKY) 知事がアルハンゲリスク州知事代行に就任した¹⁸。ツイブリスキーの後任には、ユーリー・ベズドウドヌイ (Yury BEZDUDNY) 同自治管区副知事が就任した¹⁹。

アルハンゲリスク州とネネツ自治管区は行政・経済的に独立した別の地域であるが、同時に、ネネツ自治管区がアルハンゲリスク州の一部を構成している、いわゆる「マトリョー

シカ型」と呼ばれる関係にある²⁰。かつてこのような地域はいくつも存在していたが、その多くは2000年代後半に合併して1つの構成主体となった（表1参照）。現在同じような構造を持つのは他に、チュメニ州とヤマロ・ネネツ自治管区およびハンティ・マンシ自治管区だけに留まる。

表1 過去の連邦構成主体の合併事例

時期	現構成主体	旧構成主体	
2005年12月	ペルミ地方	ペルミ州	+ コミ・ペルミヤーク自治管区
2007年1月	クラスノヤルスク地方	クラスノヤルスク地方	+ タイムイル自治管区 + エヴェンキ自治管区
2007年7月	カムチャツカ地方	カムチャツカ州	+ コリヤーク自治管区
2008年1月	イルクーツク州	イルクーツク州	+ ウスチ・オルダ・ブリヤート自治管区
2008年3月	ザバイカル地方	チタ州	+ アガ・ブリヤート自治管区

2020年5月13日、ツイブリスキーとベズドゥドヌイ両知事代行は、両地域を合併し、単一の構成主体にするためのMOUに調印した²¹。必要な手続きを開始し、年内には住民投票を行うと発表したのである。突然の発表であったが、連邦政府は両地域政府の意向を支持した。そもそも連邦政府主導で進められた4月の人事異動が合併のための準備だったとも考えられた。しかし、両地域の住民は納得せず、抗議運動がすぐに拡大した。コロナ禍で集会等が禁止される中、ネネツ自治管区の中心都市ナリヤン・マルでは、2メートルというソーシャルディスタンスを維持しながら8キロメートルに及ぶ「人間の鎖」が結ばれた²²。住民の反発を受けて、わずか2週間後の5月26日、当初は両地域合併のための地域議会公聴会が予定されていたが、当日の朝に中止が発表され、両政府は合併手続きについて無期限の延長を発表した²³。翌27日には「統一ロシア」ネネツ自治管区支部の会合が開かれ、両知事とトゥルチャク党幹事長が出席し、住民に何の説明もせずに両地域の合併を進めようとしたことを謝罪した²⁴。

両地域の合併が提案された背景には経済的な理由が大きいと考えられている。財政赤字の続くアルハンゲリスク州に資源豊富なネネツ自治管区の税収を注入することで財政の健全化を図るということだ。ネネツ自治管区は石油ガスが豊富な一方で極端に人口が少ないため、国内有数の豊かな地域なのである。しかし、税収のほとんどを資源に依存しており、自治管区の財政が国際市場の石油価格に依存することが問題視されていた。産業多角化が進むアルハンゲリスク州と合併することで、こちらも資源依存の問題が解消されることが期待されたのである。ツイブリスキー知事は「アルハンゲリスク州には産業ポテンシャルがあり、ネネツ自治管区は北極海航路への窓口として戦略的に重要な位置づけにある。また、ネネツ自治管区には天然資源があり、アルハンゲリスク州には技術および学術研究のポテンシャルがある。これらの強みを合わせることで、両地域の発展に向けた経済的な刺激を与えることが可能である」と指摘している²⁵。

しかし、1993年の憲法制定に際して、アルハンゲリスク州から独立した行政区画となったネネツ自治管区の住民は以来約30年にわたって独自のステータスを維持してきた。人口は連邦構成主体の中で最も少ないにもかかわらず、豊富な資源による税収のおかげで生活水準は高く、豊かな暮らしをしてきている。一方、ネネツ自治管区とアルハンゲリスク州

は隣接しながら隔離されており、自動車道路も鉄道もつながっていない。より貧しい地域であるアルハンゲリスク州と合併すれば多くを州の住民とシェアしなければならない。あらゆる危機も単独で乗り越えてきたという自負があるネネツの住民にとっては、行政府が懸念する今般の自治管区経済の危機的状況を合併ではなく、これまでのように自分たちだけで乗り越えることができるという思いが強かったのだと考えられる²⁶。

(4) 憲法改正のための国民投票

2020年7月1日、ロシアでは憲法改正に関する国民投票が行われた。連邦全体で見ると投票率67.97%、支持率77.92%と、当初の予想よりも高い結果となった。しかし地域別に見ると投票率、支持率ともに低い地域も数多くみられた。表2からわかる通り、特にネネツ自治管区では投票率を加味した絶対賛成票率（有権者に対する賛成票の比率）が最も低く、単純な賛成票率を見ても唯一、半数を下回る結果となった。野党知事が率いるハバロフスクやイルクーツクでも投票率・支持率ともにワースト5に入る低さであった。その他、北方、シベリア、極東など、ロシアの経済発展の中心である欧州部から離れた遠隔地であり、これらの地域では経済発展の遅れなどによる政権への不満が強く、投票率（44 - 45%）、賛成率（60%台前半）が低くなったと考えられている。

憲法改正の論点として、特にプーチン大統領の今後の任期に注目が集まったが、実際にはいくつもの論点があった。中でもロシア地域にとって重要だったのが「国家評議会（Государственный совет）」の位置づけである。2000年9月1日に連邦大統領令²⁷によって設置された国家評議会は、連邦大統領が議長を務め、全連邦構成主体の首長がメンバーを構成する。国の重要課題、特に中央と地方の関係に関する事項について議論し、提言などを行う大統領の諮問機関であった。2012年以降、連邦議会両院議長、連邦政府議長（＝首相）、大統領府幹部および大統領が選ぶ代表もメンバーを構成することが可能となり、その規模は拡大していた。

今回の憲法改正により、国家評議会については「公権力機関の調和のとれた運営および協力の保障、ならびにロシア連邦の内外政策の基本方針および国家の社会経済的発展の優先方針を決定するためにロシア連邦国家評議会を編成する。ロシア連邦国家評議会の地位は連邦法によって定める」と憲法で規定された²⁸。これによって、内政に特化していた国家評議会の役割が外交・安全保障にも及ぶことになり、権限が強化・拡大された。そして、実際、2020年12月8日には国家評議会に関する新しい連邦法が制定された²⁹。構成メンバーについては連邦大統領が議長を務め、両議会議員、連邦管区大統領全権代表、地域首長、連邦下院会派リーダーがメンバーとなる。また、これまで同様、大統領の決定に基づいて首長経験者やその他の公的活動で豊富な経験を持つ人がメンバーに含まれる可能性もある。効率的に問題の解決を図るため、8人のメンバーから成る幹部会も組織される³⁰。個別の問題に対応するために国家評議会の中には委員会（Commission）が設置されることになった。

国家評議会が設置される以前、地域首長は自動的に連邦上院のメンバーとなり、国政に直接関与していたが、このEx-officio権限ははく奪された。その代わりとして国家評議会が設立され、地域首長の連邦の政治過程への影響力を削ぐ一方で不満を最小限に抑えるための補てんだったわけである。それが、今回の国家評議会の強化・拡大により、地域首長

が再び、連邦の政治過程に関われる度合いが深まったと言えるのである。

表 2 憲法改正に関する全ロシア投票の連邦構成主体別データ（絶対賛成票率の降順に整列）

	連邦構成主体	有権者数 (人)	投票率 (%)	賛成票率 (%)	絶対賛成票率 (%)
1	チェチェン共和国	766,351	95.14	97.92	93.03
2	トゥヴァ共和国	195,623	92.80	96.79	89.81
3	バシコルトスタン共和国	3,042,183	90.83	88.68	80.49
4	ダゲスタン共和国	1,688,207	89.99	89.19	80.13
5	ケメロヴォ州	1,973,566	88.46	87.29	77.13
6	ブリヤンスク州	978,141	89.36	85.81	76.65
7	クラスノダル地方	4,234,991	85.56	88.92	76.01
8	クリミア共和国	1,501,047	81.75	90.07	73.60
9	ヤマロ・ネネツ自治管区	368,727	80.76	89.16	71.93
10	カラチャイ・チェルケス共和国	295,679	84.22	84.80	71.42
(中略)					
77	アルハンゲリスク州	894,320	50.58	65.78	33.26
78	カレリア共和国	518,910	46.07	70.46	32.45
79	サハ（ヤクーチア）共和国	631,206	55.56	58.34	32.39
80	ノヴォシビルスク州	2,164,441	47.79	67.58	32.29
81	バイコヌル市（カザフスタン）	13,742	50.11	62.27	31.20
82	トムスク州	771,907	44.57	64.86	28.90
83	イルクーツク州	1,866,073	44.18	64.28	28.39
84	ムルマンスク州	580,099	45.15	62.54	28.23
85	ハバロフスク地方	985,430	44.24	62.28	27.54
86	カムチャッカ地方	240,670	44.08	61.76	27.21
87	ネネツ自治管区	37,490	58.36	43.78	25.52
	全国	109,190,337	67.97	77.92	52.89

(出典) 上野俊彦「ロシア憲法修正に関する全ロシア投票をめぐる諸問題」『ロシアNIS調査月報』2020年9-10月号より抜粋。

(5) ハバロフスク地方の知事逮捕劇

2020年7月9日早朝、セルゲイ・フルガル（Sergei FURGAL）ハバロフスク地方知事が自宅前で逮捕された。現職知事の逮捕は昨今のロシアでは珍しくないものの、「殺人・殺人未遂容疑」は前代未聞であり、ロシア中に衝撃が走った。モスクワに移送されたフルガルは2カ月の拘留を言い渡されたが、その後も拘留期間が延長され、2020年11月25日にその期間は2021年3月まで延期された。フルガルは自身に対する刑事訴訟を政治的なものと主張し、容疑は全面的に否認している。

1970年、ハバロフスクに隣接するアムール州で生まれたフルガルは、地元の医科大学を卒業後、医療に従事していた。1999年以降は、副業としていたビジネスに本格的に着手

するようになり、ハバロフスクに拠点を移した。2005年に自由民主党に入党し、ハバロフスク地方議会議員に当選したのを皮切りに政治の道へと進み、2007年12月には連邦下院議員に当選。以来、2011年と2016年にも連邦下院で再選を果たした。自由民主党推薦で2013年9月にハバロフスク知事選挙に出馬したフルガルであったが、当時現職のヴァチェスラフ・シポルト（Vyacheslav SHPORT）に敗れた。これが2018年9月の知事選挙では状況が一変。1回目の投票で35.81%の支持を得ると、僅差でシポルト（35.62%）に勝利。2週間後の決選投票では69.57%と大差をつけて勝利したのである³¹。野党候補の知事就任は連邦政府から歓迎されるものではなかったが、地元住民の信頼は着実に深めていた。それを示すかのように、知事選から1年後の2019年9月に行われたハバロフスク地方議会および2大都市ハバロフスクとコムソモリスク・ナ・アムーレの市議会選挙で自由民主党が圧勝したのである³²。

そのため、突然のフルガルの逮捕に地元住民は大きく反発した。7月11日に地方政府庁舎に隣接するレーニン広場で大規模な集会が行われ、4万人以上が参加した。抗議運動は製造業の中心地であるコムソモリスク・ナ・アムーレやアムールスクなど地方全域に拡大し、翌日まで続いた。集会の参加者はフルガルの逮捕に反発するだけでなく、2018年12月に極東連邦管区の拠点がハバロフスクからウラジオストクに移管されたこと³³に対する不満や今になって古い事件を掘り起こした連邦当局への不信感、さらに2019年3月に拘束されたヴィクトル・イシャエフ（Viktor ISHAYEV）元ハバロフスク地方知事の保釈要求など、スローガンは多岐にわたっていた。ハバロフスクのデモは、規模を縮小しつつ、年末までほぼ毎日のように続けられていたが、2021年1月2日、ハバロフスク政府は住民によるデモが終了したことを宣言した³⁴。

フルガルは逮捕から11日後の2020年7月20日に解任された³⁵。逮捕から解任まで時間を要したのは、予想以上の地元の反発を受けて政権が後継者選びに苦慮したことを意味する。ハバロフスク空港社長、極東連邦管区副全権代表、ハバロフスク地方副知事など、複数の候補者の名が挙がっていたが、プーチン大統領はフルガルと同じ自由民主党出身のミハイル・デグチャリョフ（Mikhail DEGTARYOV）を知事代行に任命した。デグチャリョフを任命した理由について、ペスコフ連邦大統領報道官は、報道陣から地元住民の意見を考慮した結果かと聞かれると、「当然」と答え、デグチャリョフが「連邦下院での職務から豊富な立法活動の経験を持っており、政治経験も豊富である。さらに自由民主党での政党活動でもよく知られており、実践的な経験も積んでいる」と指摘し、「こうした素質については、自由民主党のジリノフスキー党首に認められている」ことを強調した³⁶。フルガル逮捕に強く反発していたジリノフスキー自由民主党党首の強い推薦を受けてデグチャリョフが任命されたと考えられる。

2. 無風の2020年首長選挙

(1) 選挙結果

前述のとおり、一部地域で政権に対する風当たりが強い中、2020年9月13日には統一地方選挙が行われ、18地域で首長の直接選挙が行われた。うち9地域では現職首長、残りの9地域では前任首長の辞職に伴って大統領に任命された首長代行が出馬した。一部専門家の間では、イルクーツク州、アルハンゲリリスク州など政権に批判的な声が強いと考えら

れる地域では現職が苦戦を強いられ、決選投票にもつれ込む可能性があると予想されていた³⁷。しかし、共産党の候補者が7地域で登録無効になるなど、各地で有力な対立候補が出馬できずに決選投票にもつれ込む地域はなく、全ての地域で現職の首長または首長代行が勝利した。

今回の首長選挙で最大の得票率を獲得したのは、セヴァストポリ市のミハイル・ラズヴォジャエフ（Mikhail RAZVOZHAYEV）であった（得票率 85.72%、以下同）。また、3期目となるレニングラード州のアレクサンドル・ドロズデンコ（Aleksandr DROZDENKO）（83.61%）、タタルスタン共和国のルスタム・ミンニハノフ（Rustam MINNIKHANOV）（83.27%）も安定した支持で再選を果たした。さらに2期目の再選を果たしたクラスノダル地方のヴェニアミン・コンドラチエフ（Veniamin KONDRATYEV）（82.97%）や初当選となるユダヤ自治州のロスチスラフ・ゴリドシュテイン（Rostislav GOLDSHTEIN）（82.50%）とカムチャッカ地方のヴラジーミル・ソロドフ（Vladimir SOLODOV）（80.51%）も80%を超える圧倒的な支持を獲得した。そして苦戦が予想されたアルハンゲリスク州のツイブリスキー（69.63%）やイルクーツク州のイーゴリ・コブゼフ（Igor KOBZEV）（60.79%）も、2位となった対立候補の得票がほかの地域と比べて高かったものの、十分な支持を獲得した。最も低い得票率であったスモレンスク州のアレクセイ・オストロフスキー（Aleksey OSTROVSKY）（56.54%）を除くと全員が60%以上と全体的に高い得票率で現職が勝利する結果となった（表3参照）。

また、ネネツ自治管区とハンティ・マンシ自治管区では、自治管区議会議員による間接選挙で首長の選出が行われた。前者ではベズドウドヌィが正式に知事に選ばれ、後者では、現在、唯一の女性知事である現職のナタリヤ・コマロヴァ（Natalya KOMAROVA）知事が再選した。

表3 2020年連邦構成主体首長選挙の結果一覧

	地域名	当選者（所属）（前職）／ 第2位となった候補者（所属）	得票率	投票率
1	コミ共和国	ヴラジーミル・ウイバ（無所属） （2020年4月－代行、連邦保健省次官） アンドレイ・ニキーチン（自由民主党）	73.16% 10.84%	30.93%
2	タタルスタン共和国	ルスタム・ミンニハノフ（統一ロシア） （2010年3月－現職） アリミル・ミヘエフ（公正ロシア）	83.27% 4.93%	78.78%
3	チュヴァシ共和国	オレグ・ニコラエフ（無所属） （2020年1月－代行、下院議員） アレクサンドル・アンドレーフ（共産党）	75.61% 10.29%	55.36%
4	カムチャッカ地方	ヴラジーミル・ソロドフ（無所属） （2020年4月－代行、サハ共和国政府議長） ヴァレリー・カラシニコフ（自由民主党）	80.51% 6.70%	37.15%
5	クラスノダル地方	ヴェニアミン・コンドラチエフ（無所属） （2015年9月－現職） アレクサンドル・サフロノフ（共産党）	82.97% 8.21%	70.29%

	地域名	当選者（所属）（前職）／ 第2位となった候補者（所属）	得票率	投票率
6	ペルミ地方	ドミトリー・マホニン（無所属） （2020年2月－代行、連邦認証局局长） クセーニャ・アイタコヴァ（共産党）	75.69% 13.63%	35.75%
7	アルハンゲリ斯克州	アレクサンドル・ツイプリスキー（統一ロシア） （2020年4月－代行、ネネツ自治管区知事） イリーナ・チルコヴァ（公正ロシア）	69.63% 16.92%	32.64%
8	ブリャンスク州	アレクサンドル・ボゴマス（統一ロシア） （2015年9月－現職） アンドレイ・アルヒツキー（共産党）	71.70% 10.09%	57.43%
9	イルクーツク州	イーゴリ・コブゼフ（無所属） （2019年12月－代行、連邦非常事態省次官） ミハイル・シチャポフ（共産党）	60.79% 25.50%	32.60%
10	カルーガ州	ヴラジスラフ・シャプシャ（統一ロシア） （2020年2月－代行、オブニンスク市長） ニコライ・ヤシキン（共産党）	71.19% 9.93%	35.58%
11	コストロマ州	セルゲイ・シトニコフ（統一ロシア） （2012年－現職） ヴァレリー・イジツキー（共産党）	64.65% 16.30%	31.98%
12	レニングラード州	アレクサンドル・ドロズデンコ（統一ロシア） （2012年5月－現職） アンドレイ・レベジェフ（自由民主党）	83.61% 7.31%	51.52%
13	ペンザ州	イヴァン・ペロゼルツェフ（統一ロシア） （2015年9月－現職） オレグ・シャリャピン（共産党）	78.72% 8.46%	56.64%
14	ロストフ州	ヴァシーリー・ゴルベフ（統一ロシア） （2010年－現職） エヴゲニー・ベッソノフ（共産党）	65.53% 17.63%	46.55%
15	スモレンスク州	アレクセイ・オストロフスキー（自由民主党） （2012年4月－現職） アンドレイ・ミトロファネンコフ（共産党）	56.54% 25.80%	27.40%
16	タンボフ州	アレクサンドル・ニキチン（統一ロシア） （2015年9月－現職） アンドレイ・ジトコフ（共産党）	79.30% 8.72%	64.11%
17	セヴァストポリ市	ミハイル・ラズヴォジャエフ（統一ロシア） （2019年7月－代行、「全ロシア国民戦線」事務局 局長） イリヤ・ジュラヴレフ（自由民主党）	85.72% 4.95%	48.28%
18	ユダヤ自治州	ロスチスラフ・ゴリドシュテイン（統一ロシア） （2019年12月－代行、連邦上院メンバー） ヴラジーミル・ドゥディン（公正ロシア）	82.50% 7.07%	73.20%

	地域名	当選者（所属）（前職）／ 第2位となった候補者（所属）	得票率	投票率
19	ネネツ自治管区	ユーリー・ベズドウドヌイ（統一ロシア） （2020年4月－代行、同自治管区副知事）		
20	ハンティ・マンシ自治管区	ナタリヤ・コマロヴァ（統一ロシア） （2010年3月－現職）		

（出典）コムルサントで発表されているデータを基に筆者作成。

（2）連邦下院選挙に向けた準備

今回の統一地方選挙は2021年9月に行われる予定の連邦下院選挙のリハーサルと見られていた。結果を見る限り、連邦下院選挙でも統一ロシアが過半数を維持することはほぼ確実と考えられる。一方で自由民主党や共産党がここ数年の統一地方選挙で議席や得票率を伸ばしてきており、下院の議席を増やす可能性は高い。同じく議会政党である公正ロシアは得票や議席を伸ばしておらず、むしろ多くの地域で支持が落ち込んでいるため、下院の議席を維持できるかどうかについて多くの専門家が疑問視している。そして公正ロシアに代わって、新しい中小規模の政党が下院で議席を獲得する可能性も否定できない³⁸。ただ、新しい政党の台頭は統一ロシアよりも共産党や自由民主党の議席を奪う可能性があり、必ずしも現政権に脅威とはならないだろう。また、電子投票や複数投票日の制度を常態化することによって、高い投票率や動員を確保できると、各政党の対応が変わる可能性はある。

統一ロシアの得票に影響するのは野党に対する支持率だけではない。むしろより重要となるのが、各地域における現職首長への支持だ。ここ数年、連邦政府は統一地方選挙を政権に有利な形で進めるために、再選が危ぶまれる首長については事前に交代させることで、選挙での敗北を回避してきた。そのための準備がうまくいかなかったことで波乱となったのが2018年の統一地方選挙であった。この教訓を得て、2019年と2020年の統一地方選挙では十分な対策がとられ、2018年の過ちが繰り返されることはなかった。2021年は連邦下院選挙と首長選挙が同時開催となるため、連邦政府は地域首長に対する住民の支持や信頼にこれまで以上に敏感になり、より入念な対策がとられることになるだろう。統一地方選挙後、早速そのような動きが起きている。

2020年9月17日、歴代最長の地域首長在任記録を誇るエヴゲニー・サフチェンコ（Yevgeny SAVCHENKO）ベルゴロド州知事が辞任を表明した³⁹。1993年10月にエリツィン大統領（当時）によって州行政長官に任命されて以来、27年間、ベルゴロド州を統治してきた。再選を重ねるたびに辞任の可能性も示唆されてきたサフチェンコだが、2022年まで残り2年の任期を残して、とうとう知事生命に自ら幕を閉じた。サフチェンコはベルゴロド州の行政から手を引く一方で同州代表の連邦上院メンバーに就任した。ところが、サフチェンコの後任選びが難航した。サフチェンコが辞任を表明した日、2019年2月に新設された廃棄物処理システムの改革を担う公社「ロシア環境オペレーター」の社長に就任し、同年11月まで在任していたデニス・ブツァエフ（Denis BUTSAYEV）が州の第一副知事に就任した。第一副知事と言えば、事実上州政府のナンバー2であり、知事代行に任命されるための人事と思われていた。しかし、サフチェンコの退任から1カ月経ってもブツァエフを知事代行に任命する正式な大統領令は署名されなかった。そして11月18日によりやく署名

された大統領令では、スタヴロポリ地方で政府副議長を務めていたヴャチェスラフ・グラトコフ（Vyacheslav GLADKOV）が正式な知事代行に就任した⁴⁰。一方、ブツァエフは同日、第一副知事を解任され、11月20日に古巣「ロシア環境オペレーター」社長に復帰した⁴¹。

そして10月5日には北カフカスの多民族共和国ダゲスタンでヴラジーミル・ヴァシリエフ（Vladimir VASILYEV）首長が辞任し、大統領顧問に就任した⁴²。ヴァシリエフは2017年10月に同共和国としては初めて、共和国の主要民族（アヴァール人、ダルギン人、クムイク人）以外の出自の首長として就任した⁴³。ヴァシリエフの辞任の理由については71歳という高齢が挙げられている。ヴァシリエフの後任にはスタヴロポリ地方代表の連邦上院メンバーであるセルゲイ・メリコフ（Sergey MELIKOV）が就任した。メリコフは2016年まで北カフカス連邦管区の大統領全権代表を務め、2016 - 2019年は連邦国家親衛隊軍局の第一副長官を務めていた。プーチン大統領はメリコフとのオンライン会談で共和国の犯罪防止に努めるよう強調した⁴⁴。

さらに11月18日、モルドヴィア共和国のヴラジーミル・ヴォルコフ（Vladimir VOLKOV）首長が辞任を発表し、同日夕方に大統領が辞任を受け入れ、後任の代行を任命した⁴⁵。ヴォルコフは1990年代から長期政権を築いてきたニコライ・メルクシキン（Nikolai MERKUSHKIN）首長の右腕として1995年10月から共和国政府議長（＝首相）を務め、2012年5月に辞任を表明したメルクシキンに代わって首長に就任した。昨今の地域首長は地元との結びつきが希薄なケースが多い中、ヴォルコフは生まれも育ちも、仕事のキャリアもずっとモルドヴィアで築き上げた地元の最有力エリートであった。しかし、近年はヴォルコフ派と前任メルクシキン派のエリートの間で対立が生じており、自身の健康問題もあって辞任が検討されていたという⁴⁶。前述のヴァシリエフ首長下のダゲスタン共和国で政府議長を務めていたアルチョム・ズドゥノフ（Artem ZDUNOV）が首長代行に就任した。1978年生まれ（42歳）のズドゥノフは民族的にモルドヴィア人であるが、同じ沿ヴォルガ連邦管区のタタルスタン共和国で生まれ育ち、タタルスタン共和国政府で経済発展省次官（2009 - 2014年）や大臣（2014 - 2018年）を務めていた。

これら3地域での首長交代は、元首長が高齢であり若いテクノクラートへの交代となったこと、また、首長代行はいずれも地域との結びつきが希薄なことを共通項として挙げることができる。

おわりに

個々の地域が反体制運動などで揺れ動く一方、選挙結果を見る限りでは連邦全体として今のところ政権に対する安定した支持が確立されている。しかし、一地域の不安定要因がいくつも発生すれば、それが各地に波及し、いずれ大きな波になる可能性は十分に考えられる。まさにその大きな波となりかねない統一地方選挙。2020年は無風だったものの、2021年に嵐が吹き荒れる可能性は十分に考えられる。2021年の統一地方選挙は5年ぶりに連邦下院選挙との同時開催が予定されているため、連邦政府にとっては投票率・得票率ともに安定した数字を獲得し、何としても無風で終わらせたいはずだ。しかし、2020年末まで断続的なデモが続いていたハバロフスクなど、波乱が起りかねない地域がある。また年初から反体制運動家の拘束でも各地が揺れている。2021年のロシアの地域情勢については引き続き注視が必要である。

— 注 —

- 1 本稿ではロシア連邦の連邦構成主体（субъекты Российской Федерации）を総称して「地域」と呼ぶ。
- 2 本稿では地域の行政長官（глава субъектов РФ）を総称して「首長」と呼ぶ。一方、個別の肩書については「共和国大統領（президент Республики）」「知事（губернатор）」「共和国首長（глава Республики）」を使う。
- 3 例えば、2020年9月に首長選挙が行われたコミ共和国、チュヴァシ共和国、カムチャッカ地方、ペルミ地方、イルクーツク州では2020年に地域議会が地域の選挙法を修正し無所属での出馬を可能とした。
- 4 2005 - 2012年まで導入されていた地域首長の選出制度については「大統領任命制」と呼ばれることが多いが、法律・手続き的には大統領が首長を任命しているのではなく、大統領府が選んだ3人の候補者の中から大統領が1人を選び、地域議会に承認を得るという手順を踏んでいた。一方で、大統領の事務局である大統領府が大統領の意に反する候補者を選ぶはずはなく、また地域議会が大統領の選出を拒否するケースもない。そのため、実質的には「大統領による任命制」であり、従って、本稿では当該制度に言及する際括弧つきで表現する。なお、当該制度については、拙著「ロシア地方首長選出制度－プーチン・メドヴェージェフの特徴－」『ロシアNIS調査月報』2011年5月号が詳しい。
- 5 公選制の復活については、拙著「ロシアの地方首長の新潮流－直接選挙の復活とその意義－」『ロシアNIS調査月報』2014年2月号が詳しい。
- 6 イルクーツク州の歴代知事は、ユーリー・ノジコフ（1991年 - 1997年4月）、ボリス・ゴヴォリン（1997年4月 - 2005年8月）、アレクサンドル・ティシャニン（2005年9月 - 2008年4月）、イーゴリ・エシポフスキー（2008年4月 - 2009年5月）、ドミトリー・メゼンツェフ（2009年6月 - 2012年5月）、セルゲイ・エロシチェンコ（2012年5月 - 2015年9月）、セルゲイ・レフチェンコ（2015年9月 - 2019年12月）、イーゴリ・ゴブゼフ（2020年9月 - ）。
- 7 <https://www.rotobo.or.jp/events/20171109Irkutsk.pdf>
- 8 拙著「大荒れの2018年ロシア統一地方選挙」『ロシアNIS経済速報』2018年9月25日号、および拙著「沿海地方とハバロフスク地方の知事選－統一地方選挙の波乱とその背景」『ロシアNIS調査月報』2018年11月号
- 9 イルクーツク州公式サイト、2019年4月29日 (<https://irkobl.ru/authorities/sergey-levchenko/performance/712617/>)
- 10 РБК, 2019.12.12 (<https://www.rbc.ru/politics/12/12/2019/5df221a59a79474aafa46dd0>)
- 11 Указ Президента Российской Федерации от 12.12.2019 г. №600 О досрочном прекращении полномочий Губернатора Иркутской области (2019年12月12日付ロシア連邦大統領令 No.600「イルクーツク州知事の任期満了前権限停止について」(<http://www.kremlin.ru/acts/bank/44926>))
- 12 Указ Президента Российской Федерации от 29.01.2020 г. №68 О досрочном прекращении полномочий Главы Чувашской Республики (2020年1月29日付ロシア連邦大統領令 No.68「チュヴァシ共和国首長の任期満了前権限停止について」(<http://www.kremlin.ru/acts/bank/45151>))
- 13 ニキータ・ベールィフは2012 - 2016年にかけて、60万ユーロ超の賄賂を2度受け取った疑いで2016年6月24日に連邦捜査委員会および連邦保安局によって逮捕され、28日に「信用失墜」を理由に解任された。2018年2月、8年間の実刑が言い渡されている。
アレクサンドル・ソロヴィヨフは2017年4月に起訴され、8月以降自宅軟禁状態にあったが、2018年12月に裁判を開始し、2020年10月、10年の実刑と2億7,500万ルーブルの支払いが命じられた。
- 14 «Отдельные [журналисты или блогеры], которые приходят с разных регионов РФ, хорошо здесь устраиваются. И начинают писать, не знаю о чем и о ком. Лишь бы заработать на разных схемах. Поэтому нужно четко обозначить, - надо их мочить, как в народе говорят. Надо мочить.» (BBC News Русская служба, 20 января 2020, <https://www.bbc.com/russian/features-51177038>) 「ロシア各地出身の特定のジャーナリストやブロガーはここでいい仕事を見つけ、いろいろな記事を書き始めるが、私には何を言っているのか、誰のことを書いているのかわからない。お金を稼ぐためだけのようだ。従って、人々が言っている通り、『彼らを排除する必要がある』ということは明確に示しておく必要があるだろう。排除する必要があるのだ」(筆者訳)。
- 15 Верховный суд Российской Федерации, Карточка производства, 20.05.2020, Дело №АКПИ20-276 (ロシア連邦最高裁判所、訴訟カード2020年5月20日 No.АКПИ20-276) (https://vsrf.ru/practice/cases/10675483?fbclid=IwAR3_g5ycc29sF7ZEtusE1)
- 16 РИА Новости, 2020.6.19 (<https://ria.ru/20200619/1573184766.html>)

- 17 Новая газета, 2020.6.21 (<https://novayagazeta.ru/articles/2020/06/21/85948-bunt-gubernatora-ignatieva>)
- 18 Указ Президента Российской Федерации от 02.04.2020 г. №240 Об исполняющем обязанности Губернатора Архангельской области (2020年4月2日付ロシア連邦大統領令「アルハンゲリリスク州知事代行について」 (<http://www.kremlin.ru/acts/bank/45387>))
- 19 Указ Президента Российской Федерации от 02.04.2020 г. №241 Об исполняющем обязанности Губернатора Ненецкого автономного округа (2020年4月2日付ロシア連邦大統領令「ネネツ自治管区知事代行について」 (<http://www.kremlin.ru/acts/bank/45396>))
- 20 マトリョーシカ型地域とは、別の連邦構成主体を内包している連邦構成主体のこと。
- 21 Коммерсантъ, 2020.5.13, (<https://www.kommersant.ru/doc/4343124>)
- 22 Коммерсантъ, 2020.5.31, (<https://www.kommersant.ru/doc/4364004>)
- 23 Коммерсантъ, 2020.5.27, (<https://www.kommersant.ru/doc/4357199>)
- 24 Ведомости, 2020.5.28 (<https://www.vedomosti.ru/politics/articles/2020/05/27/831303-arhangelskaya-obedinenie>)
- 25 同上。
- 26 Снов, 2020.6.1 (<https://yandex.ru/turbo/snob.ru/s/entry/193480/>)
- 27 Указ Президента Российской Федерации от 01.09.2000 г. О создании Государственного совета Российской Федерации (2000年9月1日付ロシア連邦大統領令「ロシア連邦国家評議会の創設について」)
- 28 2020年の修正が反映された憲法全文 (duma.gov.ru/news/48953)
- 29 Федеральный закон от 08.12.2020 г. №394-ФЗ О Государственном Совете Российской Федерации (2020年12月8日付ロシア連邦法 No.394 「ロシア連邦国家評議会について」) (www.kremlin.ru/acts/bank/46186/page/2)
- 30 本稿執筆時点の国家評議会幹部会は、バグロフ・サントペテルブルグ市知事、ボチャロフ・ヴォルゴグラード州知事、ココフ・カバルダ・バルカル共和国首長、リマレンコ・サハリン州知事、ルデニヤ・トヴェリ州知事、トメンコ・アルタイ地方知事、ハビロフ・バシコルトスタン共和国首長、シムコフ・クルガン州知事となっている。
- 31 注8と同。
- 32 拙著「2019年ロシア統一地方選挙結果」『ロシアNIS経済速報』2019年9月25日号
- 33 Указ Президента Российской Федерации от 13.12.2018 г. О внесении изменения в перечень федеральных округов, утвержденный Указом Президента Российской Федерации от 13 мая 2000 г. №849» (2018年12月13日付ロシア連邦大統領令「2000年5月13日付ロシア連邦大統領令によって承認された連邦管区リストへの修正について」) (<http://www.kremlin.ru/acts/news/59396>)
- 34 РИА Новости, 02.01.2021 (<https://ria.ru/20210102/miting-1591798723.html>)
- 35 Указ Президента Российской Федерации от 20.07.2020 г. №473 О досрочном прекращении полномочий Губернатора Хабаровского края (2020年7月20日付ロシア連邦大統領令 No.473 「ハバロフスク地方知事の任期満了前権限停止について」) (<http://www.kremlin.ru/acts/bank/45717>)
- 36 ТАСС, 21 июля 2020 (<https://tass.ru/politika/9014621>)
- 37 VII Рейтинг Политической Устойчивости Глав Регионы Госсовет 2.0, Август 2020 (第7回地域首長政治的安定性ランキング2.0), MINCHENKO CONSULTING (https://minchenko.ru/netcat_files/userfiles/GOSSOVET_7_-_AVGUST_2020_ITOG_23.08.20.pdf)
- 38 2020年9月の統一地方選挙では、「緑のオルタナティブ (Зеленная альтернатива)」「新しい人々 (Новые Люди)」「真実のために (За правду)」「直接民主主義党 (Партия прямого демократия)」の新しい4政党が候補者を擁立し、うち、「直接民主主義党 (Партия прямого демократия)」以外は、地域議会で議席を獲得。いずれの地域でも公正ロシアを抜いて統一ロシア、自由民主党、共産党に次ぐ4番目の政党となった。
- 39 РБК, 2020.9.17 (<https://www.rbc.ru/politics/17/09/2020/5f6384429a79471486b92617>)
- 40 Указ Президента Российской Федерации от 18.11.2020 г. №713 Об исполняющем обязанности Губернатора Белгородской области (2020年11月18日付ロシア連邦大統領令 No.713「ベルゴロド州知事代行について」) (<http://www.kremlin.ru/acts/bank/46058>)
- 41 Расположение Правительства Российской Федерации от 20 ноября 2020 года №3045-р О генеральном директоре публично-правовой компании по формированию комплексной системы обращения с твердыми коммунальными отходами «Российский экологический оператор» (2020年11月20日付ロシア連邦政府

- 決定「廃棄物処理複合システム編成公益企業『ロシア環境オペレーター』社長について」(<http://static.government.ru/media/files/НОрwbpDfIAQkgAIowEXqh9BG7EXhwbI.pdf>)
- 42 Указ Президента Российской Федерации от 05.10.2020 г. №610 О досрочном прекращении полномочий Главы Республики Дагестан (2020年10月5日付ロシア連邦大統領令 No.610 「ダゲスタン共和国首長の任期満了前権限停止について」) (<http://www.kremlin.ru/acts/bank/45913>) Указ Президента Российской Федерации от 05.10.2020 г. №611 О советнике Президента Российской Федерации (2020年10月5日付ロシア連邦大統領令 No.611 「ロシア連邦大統領顧問について」) (<http://www.kremlin.ru/acts/bank/45907>)
- 43 РБК, 2017.10.3 (<https://www.rbc.ru/newspaper/2017/10/04/59d3b39c9a794744a230dab4>)
- 44 «Рабочая встреча с Владимиром Васильевым и Сергеем Меликовым» (ヴラジーミル・ヴァシリエフおよびセルゲイ・メリコフとの会談) 連邦大統領 HP、2020年10月5日 (<http://www.kremlin.ru/events/president/news/64158>)
- 45 Указ Президента Российской Федерации от 18.11.2020 г. №714 О досрочном прекращении полномочий Главы Республики Мордовия (2020年11月18日付ロシア連邦大統領令 No.714 「モルドヴィア共和国の任期満了前権限停止について」) (<http://www.kremlin.ru/acts/bank/46057>)
- 46 Коммерсантъ, 2020.11.19, (<https://www.kommersant.ru/doc/4576033>)